

EVENT SCHEDULE

ALL MAP



紹介した全スポットを掲載

9 SEPTEMBER

BIWAKOビエンナーレ2018 きざし~BEYOND~

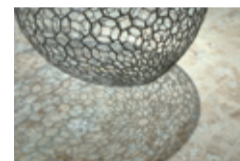


近江八幡旧市街を舞台に開催される国際芸術祭。海外作家20組含む約77組のアーティストが参加。江戸期の古民家や元酒蔵が会場になり、現代アートと歴史ある街並を楽しめる。

開催日 2018年9月15日(土)~11月11日(日) ※火曜定休
開催時間 10:00~17:00
住所 近江八幡旧市街(近江八幡市永原町中12付近)
参加料 2,200円(2,000円)、高大生・専門学校生1,500円(1,300円)、中学生以下無料 ※()内は前売価格
TEL 0748-36-3766(総合案内所「尾賀商店」)
WEB https://energyfield.org/biwakobiennale/

英語を話せるスタッフ

シガアートスポットプロジェクトVol.1 「散光/サーキュレーション」展



【滋賀県立近代美術館】が主催する、地域に根差した現代美術展示プロジェクト。“街道とサーキュレーション”をテーマに、滋賀県にゆかりのある若手作家3名の新作を中心に紹介する。

度會保浩
《Eagduru-earthenware(部分)》
2017(参考作品)

開催日 2018年9月22日(土)~10月21日(日)
開催時間 10:00~17:30
住所 長浜市黒壁スクエア周辺
(メイン会場:長浜市大宮町7-1、サテライト会場:長浜市元浜町22-37)
参加料 無料
TEL 077-522-2111 WEB http://www.shiga-kinbi.jp/

以“身”伝心 からだから、はじめてみる



“身体”がテーマの展覧会。身体やその感覚と向かい合うことで生まれる8名の作者たちの表現が、原初的な体験をもたらす。絵画や彫刻、写真、オーダーメイド車いすなどの作品を紹介。

開催日 2018年9月22日(土)~11月25日(日)
開催時間 11:00~17:00
住所 第1会場:ポータルアートミュージアムNO-MA(近江八幡市永原町上16)、第2会場:奥村家住宅(近江八幡市永原町上8)
参加料 300円(250円)、高大生250円(200円)、中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料 ※()内は20名以上の団体料金
TEL 0748-36-5018
WEB http://www.no-ma.jp/

10 OCTOBER

つくるひ 藤原敦 写真展



隔たりがあるからこそ、つながろうとする。そんな人間の夢を追い続けた滋賀県出身の写真家・藤原敦の旅の軌跡。最新作『緋丸』と、それに先立つ3つの写真集より作品を展示。

開催日 2018年10月6日(土)~11月4日(日)
開催時間 9:30~16:30
住所 三井寺 観音堂書院(大津市園城寺町246)
参加料 無料(三井寺への入山料 別途要:600円、中学生300円、小学生200円)
TEL 090-2496-7072
WEB http://fuji-field.jp/tukurohi/

無料Wi-Fi 英語看板

特別展 「信楽に魅せられた美の巨匠たち」



近代陶芸の巨匠・富本憲吉や絵画や彫刻の世界で活躍した岡本太郎など、数多くの作家が訪れた。陶郷・信楽。彼らの足取りを辿りながら、信楽のやきものの新たな魅力を探る。

開催日 2018年10月6日(土)~12月20日(木)
開催時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
住所 滋賀県立陶芸の森 陶芸館(甲賀市信楽町野宮2188-7)
参加料 700円(550円)、高大生500円(400円)、中学生以下無料 ※()内は20人以上の団体料金
TEL 0748-83-0909
WEB https://www.sccp.jp/

無料Wi-Fi ※「信楽産業展示館」内

大津祭



江戸時代に始まった天孫神社の祭礼で、湖国三大祭のひとつ。本祭では、13基の曳山が街中を巡行する。厄除けちまき、手拭いが曳山の上から撒かれ、各所でからくり人形が披露される。

開催日 山建て2018年9月30日(日)、宵宮2018年10月6日(土)、本祭2018年10月7日(日)
開催時間 山建て:8:30~15:00、宵宮:夕刻~21:00、本祭:9:00~17:30
住所 天孫神社(大津市京町3-3-36)
参加料 無料
TEL 077-525-0505
WEB http://www.otsu-matsuri.jp/home/

英語を話せるスタッフ

11 NOVEMBER

樹冠トレイルオープン



【琵琶湖博物館】の屋外展示の森に空中遊歩道「樹冠トレイル」がオープン。琵琶湖が一望でき、琵琶湖と森を間近で感じて、観察できる博物館の新たなシンボルが誕生する。

開催日 2018年11月3日(土)オープン
開催時間 9:30~17:00(入場は16:30まで)
住所 琵琶湖博物館(草津市下物町1091)
参加料 無料
TEL 077-568-4811
WEB http://www.biwahaku.jp/

無料Wi-Fi 英語パンフレット

第14回東近江市芸術文化祭 「前進座公演 出前芝居『くず〜い肩屋でござい』」



古典落語「井戸の茶碗」を原作とした、お芝居。江戸時代の生活をユーモアたっぷりに描く、人情味溢れる話に仕上げられている。市内の施設にて整理券が配布されるので事前に受け取りが必要。

開催日 2018年11月18日(日)
開催時間 14:00~
住所 東近江市立八日市文化芸術会館(東近江市青葉町1-50)
参加料 無料(要整理券) ※整理券の配布場所:八日市文化芸術会館、能登川コミュニティセンターなど
TEL 0748-24-5672(東近江市芸術文化祭実行委員会事務局)
WEB http://www.city.higashiomori.shiga.jp/

能公演「松風」



伝統芸能「能」は、奈良時代に中国から渡来した芸能「散楽」が源流とされており、のちに観阿弥、世阿弥らによって発展。「松風」は喜阿弥のオリジナルを世阿弥が改作したと考えられている。

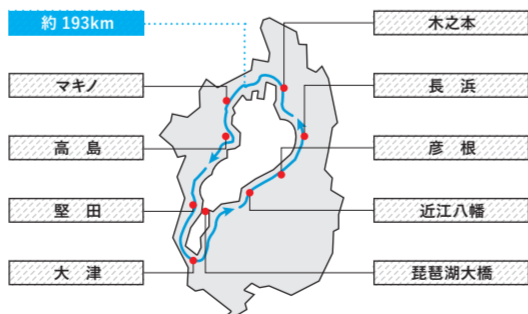
開催日 2018年11月24日(土)
開催時間 13:30 開場、14:00 開演、16:30 終演
住所 大津市伝統芸能会館(大津市園城寺町246-24)
参加料 前売S席 5,500円(当日 6,000円)、前売A席 5,000円(当日 5,500円)
TEL 077-527-5236
WEB http://www.dentogeiokaikan.net/
※大津市伝統芸能会館または聖田駅前観光案内所(077-573-1000)にて販売
※購入後の払戻不可

英語を話せるスタッフ

ビワイチ ~自転車で琵琶湖をめぐる~



琵琶湖の周囲約200kmを自転車で1周するのが「ビワイチ」。開放的な湖岸が広がるエリアもあれば、奥びわ湖では一転して静かでひっそりとした佇まいが楽しめる。沿道には、昔ながらの生活文化が感じられる場所や貴重な歴史遺産が点在する。桜や新緑、紅葉など、季節によっても琵琶湖は様々な顔を見せる。ただ湖岸を走るだけでなく、これらを周遊しながらゆっくりと2~3日かけて走るのがおすすめ。



ビワイチ BEST SHOT!!



サイクリストの聖地碑 近江 八幡堀 金剛輪寺 天寧寺 メタセコイア並木 白鬚神社



公益財団法人
びわこビクターズビューロー
https://www.biwako-visitors.jp



びわこ一周
レンタサイクル
http://biwaichi-cycling.com

FREE 2018年9~11月 vol.1

GOOL SHIGA

CULTURAL INFORMATION GUIDE

CASTLE
歴代藩主の足跡を語る

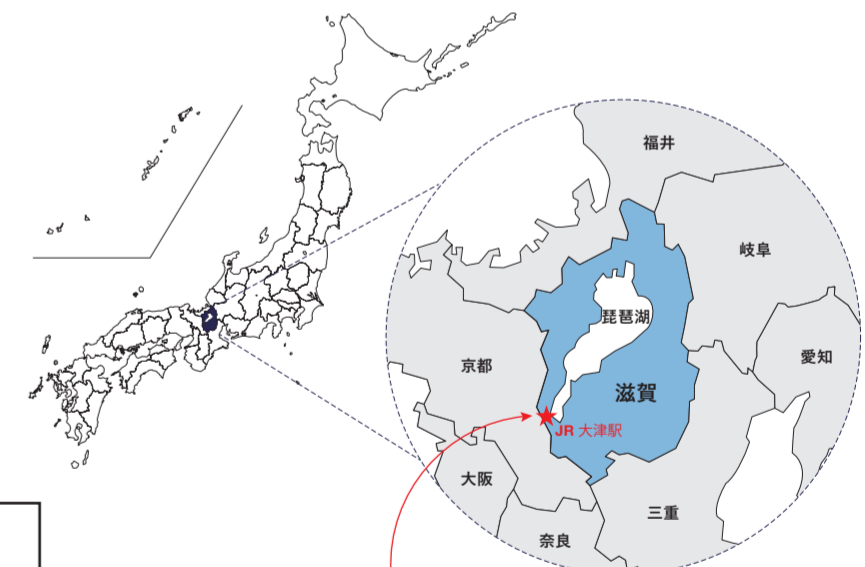
RED ARMOR
武勇を誇る「井伊の赤備え」

NINJA
技術と知識を備えたプロ集団

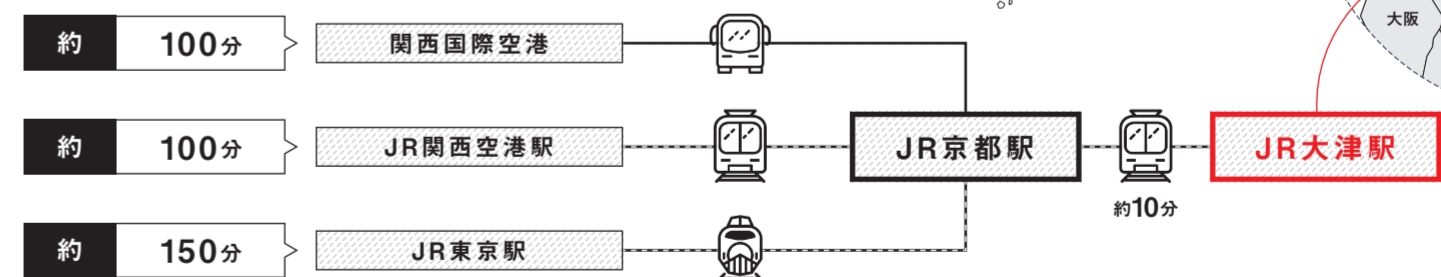
LOCAL CUISINE / EVENT

滋賀県について

日本列島のほぼ中央に位置し、日本最大の湖「琵琶湖」を有する滋賀県には、魅力溢れるエリアがたくさん。社寺や街道、歴史を伝える建物や街並を訪ねたり、古人の足跡をたどることで、多彩な文化を味わえる。また、豊かな水源と人の営みが調和した文化的景観や食文化が訪れるゲストを魅了する。まだ見ぬ滋賀県を発見しよう。



アクセス



地元の名産品 近江牛

日本三大和牛のひとつ「近江牛」。その歴史は古く、約400年前に遡る。かつての將軍や大名に献上されていたといわれる銘品だ。手間ひま掛けて育まれた黒毛和牛の肉質は、きめ細かく滑らか。甘みのある脂はしつこさがなく、口の中で幸せな余韻を感じることができる。県内のレストランでは、近江牛をステーキ、すき焼き、しゃぶしゃぶなど様々な味わい方で提供している。



CASTLE

歴代藩主の足跡を語る

400年の歴史を誇る文化財

日本の文化や歴史を語る上で外すことはできない城。軍事拠点としての守りの城から、住居も兼ねるシンボリックな城へと時代とともに変化もある。

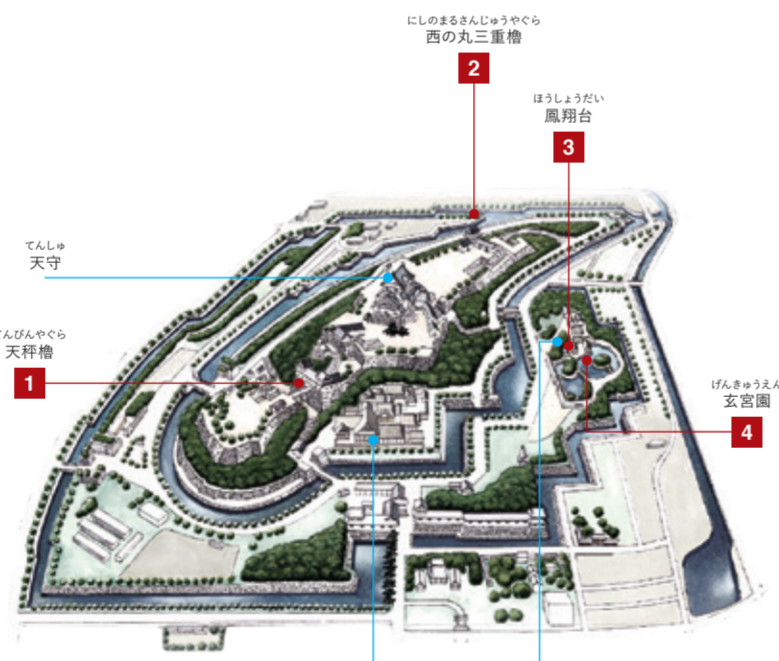


江戸時代に彦根一帯を治めた大名・井伊家の居城として築城され約400年もの歴史を持つ彦根城は、戦で焼け落ちたり、解体されたりといった城が多い日本で、築城当時の姿を留める数少ない1つ。中でも、天守、附櫓と多聞櫓は、重要文化財のうち特に文化的・学術的価値の高いものとされる国宝に指定され、世界遺産の姫路城などと合わせて“日本の国宝五城”と呼ばれる。その造りは、日本の近世城郭の基本的な構造に加え、登り石垣や大堀切など敵の侵入を阻む工夫を随所に取り入れた秀逸なもの。また、築城当初の実戦に備えた姿だけでなく、下屋敷・観音殿と広大な日本庭園・玄宮園を有する「玄宮楽々園」では、戦のない時代を迎えた藩主たちの優雅な暮らしぶりに触れることもできる。特に日米修好通商条約に調印した大老として名高い13代直弼は、藩主になる32歳までの間、茶道や武道など、この場所で様々な文化に触れて過ごした。

彦根城の歴史を辿る

彦根城の築城が始まったのは、徳川家康率いる東軍と石田三成が中心である西軍の「関ヶ原の戦い」から4年後の1604年。勝利を収めた徳川家康は、石田三成が仕えていた豊臣秀吉の息子・豊臣秀頼がいる大阪城を警戒した。そこで、徳川勢の最前線である彦根一帯を信頼を置く筆頭家老・井伊直政に与え、同地を治める城を築くよう命じた。井伊直政は後に関ヶ原での傷が原因で亡くなり、直政の長男・直継が築城に着手。その後、直継の弟・直孝によって、1622年ついに城下町を含む彦根城の大部分が完成した。

彦根城には、非常時には落とし橋となる廊下橋を中央に構える「天秤櫓」(写真1)、10m以上にも及ぶ石垣の上に築かれた「西の丸三重櫓」(写真2)など、実戦に備えた工夫が随所にある。徳川氏率いる江戸幕府が豊臣氏を滅し戦のない平和な時代になると、城郭の麓に行政と藩主の生活の場として表御殿を造営。また、藩主の下屋敷であり社交の場として、茶会などを行う「玄宮楽々園」(写真3)が造られるなど、時代に応じて変化を遂げた。玄宮園にある茶室「鳳翔台」(写真4)では、庭園内で抹茶がいただける(お菓子付き500円)。歴代藩主が眺めたであろう壮大な景色とともに、400年の歴史に思いを馳せてみよう。



TEL 0749-22-6100 住所 彦根市金魚町1-1
営業時間 8:30~17:00(入場) 定休日 無休
見学料金 800円、小中学生200円、小学生未満無料
彦根城・玄宮園セット1,200円、小中学生350円
観覧可否 禁煙(屋外に喫煙スペースあり) WEB http://www.hikoneshi.com/jp/castle/
無料Wi-Fi 英語パンフレット



1 天秤櫓



2 西の丸三重櫓



3 玄宮楽々園



4 鳳翔台



初代 井伊直政
「朱漆塗仏二枚胴具足」



2代 井伊直孝
「朱漆塗燗韋威縫延腰取二枚胴具足」



4代 井伊直綱
「朱漆塗朽葉系威縫延腰取二枚胴具足」



9代 井伊直弼
「朱漆塗紅系威縫延胸腰取二枚胴具足」

RED ARMOR

武勇を誇る「井伊の赤備え」

敵から身を守るために着ける鎧や兜などの「甲冑」。井伊家の部隊は、当主から家臣まで軍装を朱色で統一した「井伊の赤備え」と呼ばれる特徴がある。戦国時代に生きた井伊直政の甲冑は、肩から腕にかけての袖部分が一体化した動きやすい実戦向きで、兜も鎧も装飾のないシンプルな作りである。彦根藩井伊家2代直孝になると、横板1枚を革でつづる鎧に、頬当には歯と髭があり、角のような金の大天衝を脇に立てる兜など、威厳ある装飾を持つ。4代直綱が当主になった頃には平和な時代が続いていたため、装飾性が強い傾向に。13代直弼の甲冑は、直弼の恰幅のよい体格が感じられる。

「井伊の赤備え」は江戸時代を通じて変わらず、後世に武勇の誉れの象徴として語り継がれた。

13代 井伊直弼
「朱漆塗紅系威縫延腰取二枚胴具足」



NINJA

技術と知識を備えたプロ集団



不思議な術を使い暗殺を遂行する……世界中に広がる忍者のイメージは、実は江戸時代以降の歌舞伎や読本、マンガや映画といった創作の物語で脚色されたもの。元となったのは、室町から江戸時代頃にかけて活躍した滋賀県甲賀と三重県伊賀の里の“忍”と呼ばれた人々。彼らの真の目的は、無事に生きて情報を持ち帰ること。そのために当時の常識を卓越した技術や情報力を持つ精鋭集団だった。里の周辺が、街道を経て情報や物資がもたらされる文化的に進んだ地であったこと、また、読み書きなどを教える天台宗や修験道の寺院が周囲に多数あったことで、文武ともに優れた人材が数多く育ち、各地の戦などで活躍したと語り継がれている。



関連スポット

1 彦根城博物館



彦根藩主を助めてきた井伊家に伝わる、約4万5千点もの美術工芸品や古文書を中心に収蔵・展示。当時を再現した茶室や庭、江戸時代に建てられた能舞台などが、当時の文化や生活を垣間みることができる。

TEL 0749-22-6100 住所 彦根市金魚町1-1
営業時間 8:00~17:00(入館は16:30まで)
定休日 12月25日~31日、臨時休館あり
見学料金 500円、小中学生250円、小学生未満無料
※ただし展示内容により料金は変更
喫煙可否 禁煙(屋外に喫煙スペースあり)
WEB http://www.hikone-castle-museum.jp/

無料Wi-Fi 英語パンフレット

2 滋賀県立安土城考古博物館



「近江風土記の丘」の中核施設として、平成4年に開館した博物館。館内では縄文時代~古墳時代の考古資料のほか、織田信長と安土城に関する資料も豊富に展示している。

TEL 0748-46-2424 住所 滋賀県近江八幡市安土町下浦6678
営業時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
定休日 月曜(月曜が祝日・休日の場合は翌日)、メンテナンス休業・年末年始休館あり
見学料金 450円(企画展開催時500円)、高大生300円
※特別展開催時は別料金
喫煙可否 禁煙(屋外に喫煙スペースあり)
WEB http://www.azuchi-museum.or.jp

無料Wi-Fi 英語パンフレット

3 近江八幡堀



秀吉の甥、豊臣秀次が開いた城下町の中に流れる水路。映画やドラマのロケ地になるなど、風情溢れる景観はゆっくりと歩いて散策したい。春は桜、冬には雪景色と、四季折々美しい。

TEL 0748-33-6061(近江八幡観光案内所)
住所 近江八幡市鷹野町無量地
営業時間 9:00~17:00(近江八幡観光案内所)
定休日 無休
見学料金 無料
喫煙可否 喫煙可
WEB http://www.omis.com/annai/hachimambrn_info.htm

無料Wi-Fi 英語パンフレット

4 甲賀の里 忍術村



周囲を鈴鹿山麓の原生林に囲まれた村内には、からくり屋敷、手裏剣道場などがあり、忍者体験をすることができる。貴重な忍者の武具などを展示した、甲賀忍術博物館も見応えあり。

TEL 0748-88-5000 住所 甲賀市甲賀町隠岐394
営業時間 10:00~17:00(入村は16:00まで)
定休日 月曜
見学料金 1,030円、中学生820円、小学生730円、幼児(3~5歳)520円
喫煙可否 禁煙
WEB http://koka.ninpo.jp/

英語を話せるスタッフ